

研究授業「演習Ⅱ」の実施報告

澤 登 千 恵*

The Report of an Open Class “Enshu II”

Chie Sawanobori

要約

本稿は、高松大学 経営学部 経営学科で行われた研究授業の実施報告である。研究授業は、毎年度、前期および後期に、各学科で、授業改善のために行われている。

昨年度、経営学科では、「基礎演習Ⅰ」（池内武講師担当）および「演習Ⅱ」（筆者担当）の研究授業が行われた。本稿は、このうち後者の研究授業についての記録である。会計コースの演習Ⅱでは、会社の経営のシミュレーションを通して、会計の基礎知識を指導している。概要を述べるとともに、今後の課題を考察する。

キーワード：研究授業、ゼミナール、経営のシミュレーション

Abstract

This paper is the report of an open class performed in the Department of Business Administration of Takamatsu University. An open class is performed in each faculty and each semester in order to improve the lesson every year. In the Department of Business Administration, open classes of “Kiso-Enshu I” and “Enshu II” were held last year. This paper is the record of the latter. In “Enshu II (accounting course),” we teach the basic accounting using business simulation.

Keyword: An open class, Seminar, Business Simulation

* 提出年月日2010年 6月30日、高松大学経営学部准教授

1. 研究授業の日程

研究授業

日時：2009年12月9日（水）5校時

場所：1号館 第4演習室

受講対象：経営学科 2年生 会計コース7名

参観者：経営学科 教員6名

検討会

日時：2009年12月9日（水）6校時

場所：1号館 第4演習室

参加者：経営学科 教員8名（担当教員含む）

2. 演習Ⅱの科目内容

2.1. 経営学科のゼミナール

経営学科では、ゼミナールとして「基礎演習Ⅰ」「基礎演習Ⅱ」（以上1年次配当）、「演習Ⅰ」「演習Ⅱ」（以上2年次配当）、「演習Ⅲ」「演習Ⅳ」（以上3年次配当）、「卒業論文」（4年次、通年科目）が設定されている。

「基礎演習Ⅰ」「基礎演習Ⅱ」は作文能力の向上を、「演習Ⅰ」「演習Ⅱ」はプレゼンテーション能力の向上を、「演習Ⅲ」「演習Ⅳ」は卒業論文作成のための専門知識の習得を、「卒業論文」は卒業論文の作成を目標としている。

また、経営学科では、2年次配当の「演習Ⅰ」「演習Ⅱ」以降のゼミナールはコース制をとっている。学生は、1年次後期が終わる頃、企業経営コース、経営情報コース、事業創造コース（2009年度入学生より廃止）、会計コース、いずれかのコースを選択する。彼らは、原則として、3年次以降も、2年次で選択したコースのゼミナールに所属することになる。

2.2. 会計コースの「演習Ⅰ」および「演習Ⅱ」

2.2.1. 目的

会計コースの「演習Ⅰ」そしてこれに続く「演習Ⅱ」は、学科の共通目的である学生のプレゼンテーション能力を向上させることに加えて、学生の簿記、会計学、経営学に対する関心を高め、学習意欲を向上させるとともに、学生に専門基礎知識を習得させることを目的としている。

2.2.2. 簿記・会計学の教育上の問題

会計コースの「演習Ⅰ」および「演習Ⅱ」の目的が、学生のプレゼンテーション能力の向上のみならず、学習意欲の向上および専門基礎知識の習得を意識しているのは、次の理由による。

近年、学生の学力低下ならびにこれにともなう学生の学習離れが問題となっている。特に、簿記・会計学において、この傾向は顕著であると考えられる。具体的な理由は次の通りである。

- 数字を使う学問である簿記・会計学は、数学嫌いの学生にとって、とっつきにくいこと。
- 高松大学経営学部では、学生は、1年次に技術である簿記を、2年次に簿記を使って財務諸表を作成する方法（ルール）を、3年次に財務諸表を活用する方法を断片的に学ぶ。このため、学生は、それぞれの学問のつながりを理解することが難しいこと。すなわち簿記・会計学を体系的な学問として捉えることが難しいこと。
- 習得した簿記・会計学の知識を実践する機会が少ないこと。
- キャリア意識の欠如により、働くということをあまり意識しない学生は、社会に出たときに簿記・会計学の知識を利用するというイメージを持つことができず、結果、学習意欲が高まらない、さらには知識の応用につながらないこと。

2.2.3. 「演習Ⅰ」および「演習Ⅱ」の授業の内容

前述した理由により、会計コースの「演習Ⅰ」および「演習Ⅱ」では、証券会社の設立・運営のシミュレーションを通じた実践的な会計学の授業を行っている。会社経営および会計実務を体感させることで、学生の簿記・会計学に対する関心を高めることを狙いとしている。一方で、投資指針の発表や業績報告を行う機会を可能な限り設け、それに備えて、原稿チェックおよび発表指導を十分に行い、学生のプレゼンテーション能力の向上にも努めている。具体的な工夫は次の通りである。

- 学生がいくつかの簿記・会計学関係の授業で習得した知識を活用できる授業となっている。
- 学生が興味のある分野、具体的には株式投資と関連させた授業となっている。
- 具体的には、証券会社の設立・運営のシミュレーションを行う。この中で、学生は、会社設立の手続き、運営にともなう経営ノウハウ、お金の流れ、記帳技術、財務分析、さらには株式投資の基礎知識を学ぶことができる。
- 会計ソフトを導入し、学生が現実に近い環境で記帳を行う環境を整えている。学生は、入力技術に加えて、作成したデータの活用技術を習得することができる。特に、数字に弱い学生が躓きやすい面倒な計算処理を省くことができるため、彼らは、くじけずに簿記・会計学の知識を学ぶことができる。
- さらには、習得した技術で電子会計実務検定などに挑戦させ、学生のキャリアアップにつなげる。
- 他のコースの教員に協力してもらい、株主として、学生の会社経営をモニタリングしてもらおう。学生にとって、専門的な意見を聞く機会となるだけでなく、モチベーションを高める機会にもつながる。

2.2.4. シラバス

参考までに、シラバスに掲載した授業計画を記載しておく。

演習 I

- 第1回 オリエンテーション（およびグループ分け）
- 第2回 三菱UFJファイナンス利用方法（および電子会計の意義）
- 第3回 yahooファイナンス利用方法（および電子会計データの流れ）
- 第4回 報告
- 第5回 会計指標説明（収益性）（および会計ソフトのインストール）
- 第6回 報告
- 第7回 会計指標説明（安全性）（および会計ソフトへの入力）
- 第8回 報告
- 第9回 銘柄選択
- 第10回 会社概要・仕事分担表・事業計画書作成・期首貸借対照表
- 第11回 仕訳・転記・試算表の作成
- 第12回 決算整理仕訳・財務諸表の作成
- 第13回 経営分析
- 第14回 報告①
- 第15回 報告②

演習 II

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 前期の結果報告
- 第3回 前期の結果報告
- 第4回 前期の結果報告
- 第5回 株式投資について
- 第6回 報告
- 第7回 外部講師による授業
- 第8回 報告
- 第9回 レポート作成①（投資指針について）
- 第10回 レポート作成②（投資指針について）

- 第11回 レポート作成③（銘柄選択について）
- 第12回 レポート作成④（投資額について）
- 第13回 レポート作成⑤（振り返り）
- 第14回 期首貸借対照表の作成・会計データ入力
- 第15回 決算整理仕訳・財務報告書の作成

3. 研究授業の実施概要

当日の出席者は、経営学科会計コースの2年生7名、参観者としての教員6名であった。会計コース2年生は7名であるため、全員出席したことになる。

今回の授業は、9月の開講から数えて10回目の授業であった。授業計画では、2期目のシミュレーションに向けての投資指針の作成となっている。しかしながら、後期に実施する予定であった外部講師の授業を前期に実施することになった。さらにその外部講師を交え、投資指針の発表会を実施することにし、2コマを発表準備に割くことになった。それ故に、今回の授業内容は、授業計画での第4回目にあたる前期の結果報告（1期目の業績報告）となった。

学生は、2グループに分かれて、7月1日から9月30日までの3ヶ月間、模擬的に証券会社を運営してきた。研究授業は、教員に、学生の業績結果報告を聞いてもらう機会とし、さらに、教員の中から、次期の運営に向けて、新規の株主を募ることにした。次期の運営終了時には、株主総会を開催し、株主である教員には、次期の業績報告会（株主総会）に出席をお願いすることにした。

当日は、まず、学科全体で行うことが決まっていた漢字の小テストを実施した。次に、2グループが15分間ずつ業績報告を行った。その後、教員により報告に関する質問を受け、学生がこれに答えた。最後に、教員の中から、次期の新規の株主を募った。3人の教員の応募があった。

学生は、練習どおりに、業績報告を終えた。一方で、質疑応答では、教員による質問が株式投資に関する専門的な質問に終始し、学生はこれらに答えることができなかった。

教員による質問の具体的な内容は次の通りである。

- 売買（取引）回数の増加により、受取手数料を増加させ、利益増加を目指すことは、

必ずしも顧客の理解を得られず、現実的ではないのではないか？

一般的には、取引回数の増加は利益の増加につながる。したがって、本授業では、学生にこのことを実感させるため、損益分岐点図表を作成させ、目標取引回数を設定させ、これを達成するよう指導してきた。しかしながら、上記のコメントを考慮して、学生には、次回以降、顧客からの預り金の減少に注意を向けるよう促したい。

- 空売りに挑戦してはどうか？

空売りは面白い取組みであるが、既存のソフト（yahooファイナンス）を活用して模擬的な運用を行っているため、現段階では、挑戦することが難しい。

4. 参観記録および検討会における意見

授業終了後の検討会では、教員から次のような意見が出された。

①教育内容

授業を積極的に評価できる点

- 年間計画の中で当該授業の位置づけが明確である。
- 演習Ⅱの学年全体のテーマであるプレゼンテーション能力の向上を図るとともに、会計コースのテーマである会計能力や財務諸表読解能力の向上を図る教育内容になっていた。

授業の改善にかかわる点

- 会社経営を学ぶのか、投資を学ぶのかが不明瞭であり、意図がよく伝わらなかった。

これについては、最初の授業で、学生に説明済みである。

- 預り資産の売買回数毎に手数料を徴収する前提であるが、徴収に対し何のペナルティ

も発生しないので、証券会社の利益を安易に計上することが可能となっている。手数料の徴収に対して、何らかのトレードオフが必要である。

対策については、前述の通りである。

②授業方法

授業を積極的に評価できる点

- 仮想の会社運営を通して学習意欲を高めようとする工夫が見られた。
- 学生に興味関心を持たせるために、証券会社の運営と預り資産運用をシミュレートした点が評価できる。
- グループを作ることで、落後者が出ないように配慮されていた。

授業の改善にかかわる点

- ショートポジションがとれず、株価下落局面では資産運用が困難である。レバレッジを掛けないのであれば、オプション取引や為替取引と組み合わせるなどのリスクヘッジは、概念を導入する必要がないのではないのかと考えられる。

これについては、今後の課題としたい。

③その他

授業を積極的に評価できる点

- 学生のプレゼンテーションが上手にできていた。
- 学生が集中して勉学に取り組めるような環境整備のため、配慮が行き届いていた。

5. おわりに

会計コースの「演習Ⅰ」および「演習Ⅱ」の主たる目的は、学生が、会社の設立・運営のシミュレーションを通して、授業で習得してきた知識を活用できる力を育成することで

あった。

4月からの1年弱という短い期間で、学生は、会計知識を活用して企業を評価することができるようになった。実際の会社で行われているように、会計ソフトを使って帳簿記入をできるようになった。さらに、その電子データを分析できるようになった。学生は、実際の社会あるいは会社で、簿記・会計の知識がどのように活用されているのか、職業会計人としてどのような能力が必要とされるのかを実感できるようになったと考えられる。

一方で、学生は、株式投資については、その基礎知識を習得しただけで、授業内容はその関心を高めるまでには至らなかった。しかしながら、株式投資に対する関心は、経済への関心へとつながる。今後は、学生が、株式投資の意義を理解できるように、その仕組みを探究したいと思うように、それに影響を及ぼす経済に興味を持つように、授業内容を改善していきたい。具体的には、身近な知識で経済を理解していくような授業内容としていきたい。

さらに、これまでは、経営学科の他のコースのように、地域連携を図ってこなかった会計コースであるが、今後は、例えば、地域の証券会社に株式投資の講演を依頼する、地域のコンサルタント会社に会社設立手続き、記帳方法を指導してもらい、といったように、地域連携的な授業も実施したい。学生が「専門家（プロ）」の意見や仕事に触れることのできる機会を設け、即戦力を育成できる授業を目指していきたい。

経営学科 後期 研究授業資料

2009/12/9

6. 科目名： 演習Ⅱ（会計コース）
7. 担当者： 田中嘉穂、澤登千恵
8. 受講学生： 経営学科2年生、7名
9. 本授業の目標： ● プレゼンテーション能力の向上。 ● 簿記・会計学・経営に対する関心の向上、基礎知識の習得、学習意欲の向上。
10. 授業の概要： 証券会社の設立・運営のシミュレーションを通じて、会社経営および会計実務を体感し、その結果を発表する。

<p>11. シミュレーションの内容：</p> <p>① 会社設立の準備⇒経営者の立場で会計情報作成</p> <p>② (顧客の) 資金運用の計画⇒投資家の立場で会計情報活用</p> <p>③ 運用・帳簿記入⇒経営者(経理)の立場で会計情報作成</p> <p>④ 振り返り⇒経営者・株主の立場で会計情報活用</p>
<p>12. 工夫点：</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 1年次、2年次を通して習得した簿記・会計のばらばらの知識をすべて活用できる機会としている。 ● 様々な立場で、会計情報を活用する機会としている。 ● 既存のソフトyahooファイナンスを活用し、リアルな資金運用を行うことができる。 ● 会計ソフトを利用し、実践的な帳簿記入を行うことができる。将来的に検定取得につながる。 ● プレゼンテーションの機会を設けている(前期：専門家を招き発表会の開催、後期：大学間対抗論文コンペへの参加)。
<p>13. 日時：</p> <p>2009年12月9日(水) 5時間目</p>
<p>14. 本日のテーマ：</p> <p>第1期の業績の報告。</p>
<p>15. 本日のスケジュール：</p> <p>16時20分 挨拶</p> <p>16時20分 漢字テスト(第11回)</p> <p>16時30分 答えあわせ</p> <p>16時35分 授業の説明</p> <p>16時40分 株式会社ATM証券会社 発表・質疑応答</p> <p>16時55分 株式会社香愛証券会社 発表・質疑応答</p> <p>17時10分 新規株主の募集</p> <p>17時20分 終わりの挨拶(終了後、検討会。)</p>
<p>16. 授業に入る前に：</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 会計コースでは、2グループに分かれて、証券会社の設立・運営のシミュレーションを行っています。 ● 7月1日から9月30日までの3ヶ月間、笠井先生から資金運用を任されたとして、証券会社を運営(資金運用)してきました。 ● 会社の収益源は、笠井先生からの売買手数料と、売却益を獲得できた場合の成果報酬料です。 ● 本日は、第1期の業績報告会です。 ● 第2期では、増資を行う(新規株主を募集する)予定です。 ● 本日、報告を聞かれて、関心を持たれた先生は、株式の引受けをご検討ください。 ● 第2期は、12月下旬からの1ヶ月間の予定です。 ● 期間終了後、学生は、株主となられた先生のもとに、業績報告に伺います。 ● 見事、目標を達成できた場合には、お褒めのお言葉をお願いします。 ● 残念ながら、目標を達成できなかった場合には、とことん叱ってください。